

# 旭地域協議会と議会との意見交換会記録

令和4年7月15日（金）  
14時00分～15時10分  
旭支所 大会議室

【出席議員】村木議員、三浦議員、串崎議員、布施議員、川神議員、笹田議長

---

次第

- 1 開会
- 2 地域協議会会長挨拶
- 3 議長団挨拶
- 4 自己紹介
- 5 意見交換
  - ①人口減少（地域活動の現状、今後について）
  - ②旭の施設、資源等の今後について（温泉、赤梨、矯正施設など）
- 6 地域協議会副会長終わりの挨拶
- 7 閉会

## 【議事の経過】

[ 14時 00分 開議 ]

### 2. 地域協議会会長挨拶

- |      |  |
|------|--|
| 村木議員 | 初めに、会長からご挨拶いただく。   |
| 会長   | 本日はお忙しい中わざわざ旭地域に足をお運びいただき感謝申し上げます。ご存じのとおり旭地域協議会メンバーは各自治会から自治会長が出る形になっているので、まさに地域の最前線で地域住民とやり取りしているメンバーなので、詳しく地域のことを知っていると思う。地域の困り事や現状をありのままお伝えしたい。前回を超えるような有意義な会となることを願っている。 |
| 村木議員 | まさにありのままのご意見を頂戴したい。  |

### 3. 議長団挨拶

- |      |   |
|------|---|
| 村木議員 | 続いて、笹田よりご挨拶申し上げます。  |
| 笹田議長 | 本日はお忙しい中、この会を設けていただき感謝申し上げます。本日は忌憚ない意見を聴かせていただきたい。旭地域協議会は、今年度は7名が新任と聞いているので、去年と違うさまざまな意見が聞けると思っている。 |

### 4. 自己紹介

- |      |  |
|------|--|
| 村木議員 | 各議員を紹介させていただく。<br>《 以下、議員自己紹介 》                      |
| 村木議員 | では地域協議会委員の皆にも、一言ずつ自己紹介をお願いします。<br>《 以下、地域協議会委員自己紹介 》 |

### 5. 意見交換

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 村木議員 | 今日は二つのテーマについてご意見をいただきたい。 |
|------|--------------------------|

#### ①人口減少（地域活動の現状、今後について）

- |      |   |
|------|---|
| 村木議員 | これは浜田市全体、島根県全体の問題かと思う。浜田市において同級生400人というラインを2年前に切り、令和3年の出生が300人切ったという数字が出ている状況でもある。こういった中、地域活動 |
|------|---|

委員

の現状や今後について、皆からご意見を頂戴したい。

60歳以上が半数以上を占めている。買い物がなかなかできないので、移動販売車事業を取り上げていただき、今はまんてんがやっているものの、なかなか根づかない。自分の足で買い物に行けない人がどのくらいいるか。今後大変なことになるだろう。今後10年先はどうなるのか。

運転免許証返納をしなければならない人も出てくるだろう。そうになるとますます買い物ができない。旭町内で食品だけ売っているのがAコープ、まんてん、澤蓮商店の三つしかない。今話題になっているガソリンについても同様に、考えていければと思う。

村木議員  
委員

買い物の視点からのお話だった。ほかにあれば。

例えば都会の会社が、ネット関係で何かしらの仕事をされるときに、つながらないとすごく言われる。浜田からならまだつながりやすいと聞くが。出生数を増やすには今から若い人に来てもらう、帰ってきてもらうなりしないと増えないと思うので、働きやすいネット環境が必要になってくる。

村木議員  
委員

ネット環境対策についてのお話だった。ほかには。

人口が減少していることによって地域活動がなかなかしづらいケースがたくさんある。まちづくり推進委員会と自治会を一本化した事例が旭内にも一つある。人口減少によって地域活動が立ち行かなくなるのは、これから旧浜田市内にも起こり得ることだろうと思っている。今、旧浜田市内ではまちづくり委員会がないところに立ち上げようとされているが、その後結局自治体を中心にしなければならなくなったといったことも、人口が減るとあり得ると念頭に置いた上で。過疎地域を見れば、まちづくりとはこのようにやるべきだとわかるのでは。

正直、地域の困り事を考えると、少し地域を離れると同じような課題に対応している事例があり、そこを参考にすればもっと早く進んだのに、ということがある。地域活動をしている人は情報を取りに行けないので、情報をどのようにスムーズに取り込んでいくかが、今後のまちづくりに必要かと思う。人口の多い少ないは関係なく、自分のところはこのようにやっているという事例が簡単に見られる方法が何かあるとよいと常々思っている。

村木議員

地域活動ができなくなることはこれから市街地にも起こることで

委員

はないかということと、私も「学ぶはまねることから」と思っていて、自分たちのやっていることが発信できる環境づくりを考えると、という提案をいただいた。人口減少の現状、今後についてもあれば。

都川も来週、策定委員会を開催して、まちづくり推進委員会と一本化にはならないかもしれないが、それに近づけるよう、やっていくメンバーも決めさせていただいたが、高齢化率が70%を超えている。毎年10名くらいが自然減少である。10年先がどうなるか。策定委員会を開きながら新しいまちづくりを進めていくのだが、そのメンバー内には若い人が実際に入っておられないので、見よう見まねで勉強しながらやってはいるがメンバーそのものが集まるのは難しい。夜に会合するとせめて20時には終わってくれるようにと提案もある。それも踏まえながら今年中、11月くらいまでにはある程度めどを立て、4月から発足できるように来週から始める。いろいろ行政の指導もいただきながらやっていきたい。昨年弥栄地域で行われた意見交換会の中で、議員との意見交換会が地域の要望でなく、お互いが、住民と議会が地域の課題を共有しながらそれを話し合っ解決していこうと、弥栄地域から言われたといった資料を拝見した。もったもだと思う。

J Aと座談会をした。何の話かと思ったら経営改善計画についてだった。非常に厳しい。旭支所を事業所にするのだと。また経済センターも金城と一緒にして、旭の経済センターはなくなると説明があった。我々はJ Aの組合員で、その中に出て話を聞いたが、金融機関にお世話になっている。各種いろいろなまちづくりセンターにしてもまちづくり推進委員会にしても自治会にしても、通帳を持っているが、その辺もまたいろいろな機会で話しながら。人口減少もやむを得ない。いろいろな問題提起をするのでよろしく願います。

村木議員

人口減少によるものか、J Aの経営改善計画が発表されたとのこと。策定委員会はまちづくり計画をつくる策定委員会か。

委員

まちづくり推進委員会はあるが、過去7年前につくっているが、それをまたまちづくり条例等が変わっているので、それに触れながら新しい都川独自の委員会をつくりたいと思っている。

村木議員

了解した。4人の委員からご意見を伺った。これに関して議会から意見があれば。

三浦議員

先ほど会長から、いろいろな地域の事例を参考にしながら効率的

な地域活動をどうやって進めていくか考えたらどうかというご提案があった。私も同感である。他県の事例あるいは海外の事例も含めて。人口減少は日本だけの問題ではなく、いろいろなチャレンジがされている。そういうことをどうやって収集してくるか、一番よいのは現地で見ることだが、なかなかそうはいかない。するとネット情報しかり、我々議員が個人的にいろいろなところに行っていることをどうやって共有するか。議会の中では今までも視察に行っ、行った人間がそこで学んで終わりがちだったものを、今はきちんと情報共有する時間を新たに設けて全議員に共有する取り組みも始まっている。今、まちづくりセンターの機能が拡充されているが、それが十分に機能しているかは少し議論の必要があるが、例えばそういうところを情報の拠点化にしていくことをしっかり問題意識として捉え、全地域のまちづくりセンターに情報共有していく。情報の取り方も、ただ情報を持っていてもそれが共有されないと意味がないので、まちづくりセンターに事例の情報がストックされていることを行政課題として伝えていく。地域活動をされている方が最寄りのまちづくりセンターに通って例えば先進事例を紹介してもらい、自分たちも参考にしてみる、といったところまで落とし込んでいくような仕組みづくりは行政としてやっていく。まさにそこは社会教育の必要性といった部分はあると思う。問題意識を持って取り組むべきだと考えながら話を伺っていた。

川神議員

今、議会の活動は昔に比べて大きく変化してきている。昔は住民が行政や議会にお願いして何かやってもらおうという依存体質があったが、近年では住民みずからが自立したまちづくりをやっていこうということで、協働のまちづくりとは行政に依存するのではなく自分たちが地域を維持することを応援するものだと思っている。議会も、今は広報だけでなく広聴、皆の話を聞いて地域の実態をしっかりと把握して、それから地域の方との共同作業として地域課題を解決していく、同じ目線でやっていく方向でいかねばならないと。課題を共有し、次に課題解決の戦略をどう取ろうか。今日はまさにそういうところだと思う。最終的には住みやすい浜田にしていく。議員も市民目線でやっていきたいと思っているので、遠慮なく提案をしていただきたい。

村木議員

もう少し人口減少について話をしたいが、何かあるか。

委員

銀行やJ Aがだんだんと浜田市内に集約されている。戸川地区は邑南町の境にあるので、邑南町のほうが近いケースがある。できれば皆が利用しやすいよう旭町の中心にあってほしい。

人員確保について。助成金をもらって県道、市道の除草をやっているが、年々高齢化している。危ない斜面をやることもある。行政は予算が高くつくから、地域にやってもらって助成金をという考えもあるかもしれないが、地域住民の負担を減らしていただければ。また、山の木が伐採されて、土砂が住宅街のほうへ流れる可能性がある。その対応も市がやっていただけるならありがたい。

村木議員

町内に施設を残してほしいという話と、草刈りの件、土石流の話を伺った。ほかには。

委員

まちづくりセンターで知識を集約してくれるのはありがたいと思うが、事務局としてまちづくり推進委員会にかかわっているところが多いと思うが、まちづくりセンター職員は変わらなくても推進委員会のメンバーや自治会役員が変わっていくので、活動がリセットされてしまうことがある。まちづくりセンターの方にはファシリテーション能力の向上もぜひお願いしたい。

もう1点、先ほど交通手段の話が出たが交通弱者は何も高齢者ばかりではなく、旭は特にバスで通学しないと高校に行けない子たちがたくさんいる。実際、浜田市は今高校魅力化を掲げて一生懸命頑張ってくれているが、交通の便がないのでスクールバスが出ている私立に通う、浜田商業高校に関しては送っていけない方ではないと通えない状況にある。高校の魅力化、特に子どもたちを市内の高校に残すことを考えたら、交通の便は絶対に外せないと思う。相乗りタクシーの利用などを市から提案されているが、どうしてもチラシを見ても高齢者が使うような雰囲気の良いチラシをつくられたりするので。車を運転できない方は全員交通弱者だと私は思っている。ぜひ、例えば学生が、親の車以外で出かけてみたいときに使えたりするような形ならすごくよい。子どもたちの目線でも交通の便を考えてほしい。

村木議員

まちづくりセンター職員のファシリテーション能力についてはまた協議したい。交通手段、確かに学生も該当する。

三浦議員

交通弱者の件は議会でも出ていて、旭では先ほどおっしゃった課題を強く感じていることは我々も伺っている。どういった交通手段が旭にあるのか、あるいは旭に限らず市内で市営バスだけでなく、

どういう民間サービスがあるか、タクシー含めて。あらゆる輸送手段を、可能性を探りながら移動手段を確保していかないと、全くもって買い物にしてもかなり不便な地域になっていて人口流出に拍車をかけることになる。公共交通の問題は医療、買い物、地域活動の問題も含めて、根幹になる大事な問題だと思う。今は執行部でも公共交通再編計画が議論されているが、これこそいろいろな地域、いろいろなやり方をやっている。金城では相乗りタクシーの良好モデルとして、週に1回スーパーやコンビニに寄るといった事例もある。それが自治会単位などではなく、近隣自治会と協力できるかなど、横の連携の可能性を探ることで実現できる事業もあると思う。我々も検討していきたい。

村木議員

次のテーマに入らせていただく。

## ②旭の施設、資源等の今後について（温泉、赤梨、矯正施設など）

村木議員

魅力的な施設がたくさんある。これについて、今後のことや今抱えている課題について話してほしい。

委員

棚田の維持修繕について。棚田保全活動事業補助金を市につくってもらっているが、上限が50万円で、令和3年3月31日をもって廃止となるのが現在の要綱に書いてある。上限があるのは仕方ないのだが、このたび2件の修繕要望が出たため見積りを取ったところ合わせて約100万円かかる。お互い話し合いながらやらないといけないかもしれない。それもできるかできないかわからない。機械も大型化しており、振動等もあって石垣が緩んでくる。旭支所の方に現地に入ってもらって話をしているが、限られた金額で維持修繕をしなければならない。金がかかるからもう耕作放棄地にしてしまおうという考えを持っている方もいる。地主も大変な思いをしている。議会にもこちらの話を聞いてほしい。

村木議員

棚田の維持修繕についての話だった。ほかには。

委員

広浜鉄道周辺の草刈りを自治会で年2回実施しているのだが、手すり等がほとんど腐っているなど、見学するには危険な箇所がある。一部直されたところもある。議員に見てもらって、補助金で何とかならないかと思っている。

布施議員

都川の棚田について。中山間地域振興特別委員会というのが2年前にあり、行政が賄えないところを中山間地域に特別に、令和3年から

7年の間に10億円の予算をつけた。ただし、これは石垣を直すだけでなく棚田を直すことでどう生かすか、何のためにするのか目的をしっかりと出さないといけない。都川の棚田の米を次世代につないでいく、原風景を守ると言えれば、その予算が使えるのではと思う。

広浜鉄道についても、全国未成線サミットで昔通るはずだった鉄道を守っていくために、次の世代につないでいかないとはいけなと言われた。浜田から旭町まで来ている。一本につながって初めて広浜鉄道である。破損した場所を直してどう生かすかが大事である。今日聞いた意見は議員として伝える。

委員

いろいろな施設を守るには、例えると川下ばかりでなく川上を守っていかないと、よい漁場にもならない。よい水が海域に流れ込むことで良質なプランクトンが発生し、漁獲量が増えるのでは。もっとも環境美化していくべき。

委員

矯正施設について。ご存じのとおり当センターは平成20年10月に今の場所へ誘致された官民共同の施設である。現事業は20年契約になっていて、令和7年度末で終了する。あと3年余り。令和8年度以降がどうなるかは、次の事業者の提案あるいは国の施策が決まるまではわからない。センターそのものがなくなるわけではないが、次がどうなるかがわからない状態。センター内の民間事業者業務も現状維持なのか国の業務に戻るのかといった、業務委託範囲もわからない。もともと、地元の雇用創出という狙いもある。国に戻ればその分、国の職員が増えることになるので、旭地域に住む国の職員が増えるため人口増加にはつながる。しかし地元の雇用は減る可能性がある。どちらがよいかは判断が分かれる。令和8年度以降の動向はいつごろわかるのか、我々も知らない。他県にある同様の施設の事例を見ると、大体2年度前くらいに入札が決まるので、当センターの場合は令和6年度中には内容が固まってくるのかと思う。我々としても地元に基づいたものは継続していきたいが、こればかりは次の事業者や国の判断になる。

委員

旭温泉について、1事業者がコロナの関係で閉められた現状がある。あさひ荘が指定管理で頑張っておられるが、経営が非常に苦しい。指定管理で丸投げするのではなく、市にもしっかりフォローしてほしい。

また、赤梨の事業者で、すごく広い範囲でやっておられるところ



がなくなってしまって、荒れ果てた状態になってしまった。そこをつくり直すのは大変かもしれないが、次の方を育てるなり、広く募集するなりしないと、今やっている方では限界がある。

村木議員  
布施議員

後継者のことは昨年も出ていた。今出た三つについて。

矯正施設について、浜田市へのIターン者が昨年より少し減っている。反対にUターン者が増えている。それも女性が多い。ある程度子育てが終わり、年齢が達したらふるさとへ帰ろうかという方が結構増えているのではとされている。働き口があれば都会から帰ってくる時期が来るかもしれない。家族からも勧めたらどうか。

温泉と梨は別々に考えるのではなく、梨にも美肌効果がある。旭の温泉は昨年度のリフレッシュ部門で全国第3位に輝いた。しかしコロナ禍で宿泊施設が日帰り温泉になった。美肌に効果のあるすっぽん事業もやめられた。温泉は人間をリフレッシュさせる。浜田市には敬老入浴事業もある。市民が利用しやすければ都会から来る人も利用すると言われる。温泉事業はなくなったら大変なので、浜田市も力を入れていかないといけない。

また、赤梨は非常においしい。ふるさと納税に出される農家はあるのか。

委員

名前は言えないがやめられた業者は、ふるさと納税で結構もらっていた。

布施議員

浜田市には毎年10億円以上のふるさと納税がある。海産物が多いが農産物も結構ある。取り組みによっては非常によいのでは。やめられた農地をエゴマや大麦若葉などへ転換していると聞いている。梨だけでなく、荒らすではなく、ほかの作物に変えていくのも大事では。

村木議員  
串崎議員

川上、川下の話については何かないか。

森林が大変汚染されていて、山がだめになり、そうなると水がだめになり、最終的には水はけや倒木といった問題がある。森林を大切にすることが一番大事になる。森林環境譲与税、最終的には浜田市に7千万円まで入るが、それを使って森林を守っていく。川上を守ることは大変大事である。今後検討したい。

ネット環境について、あと2年くらいで旭と弥栄にも光ケーブルが入るので、ネット環境がよくなるのでは。

私が一番危惧しているのが、買い物関係。Aコープがあるが、毎

年赤字である。農協が支援しているはずだが、出資金がなくなり補填続きで農協が手を引いた。今は何とかもっているが、皆にも一生懸命Aコープを使っていたきたい。

村木議員

予定時刻を若干過ぎたが、今回はこのあたりで終了したい。全ての委員から意見を伺えなかったことをお詫びする。

## 6. 地域協議会副会長終わりの挨拶

村木議員

ここで副会長よりご挨拶いただきたい。

副会長

今、旭町で問題なのは和田のスタンドだと思う。多分あれも農協の施設だと思うが、農協職員がほとんどおられない。一体どうなっているのか、そういう事案ばかり耳にする。今回、議員との意見交換会をさせていただいたが、1時間では誠に短い。まだ言いたい。

二つ目に、僕は個人的には鎖国のまちづくりが好きである。何かやっているらしい、と思わせるような地域づくりをしたいという思いがある。

三つ目に、ふるさと島根定住財団のある女性から電話を受けた。内容は、浜田にIターンをされた方からで、来るまで天国、来て地獄だと。非常に残念な電話だった。

四つ目、ハッピーコーディネーターもやっている。旭の人を紹介するのだが、旭と聞くとテンションを落とす。これも非常に残念。

川神副議長は市民目線と言われた。議会の市民目線については非常に理解できるが、本庁職員の市民目線はどうなっているのか非常に疑問に思う点がたくさんある。

最後に、魅力のないところに人は集まらないと私は思っている。結論はそれだと思っている。我々地域協議会メンバーも、いかに我々が地域の魅力をつくっていくか、一生懸命やっている。またこういう機会を増やして、地域との連携を深めていただきたい。

## 7. 閉会

村木議員

今日いただいた意見は、全員協議会の場で全議員で共有したい。以上をもって旭地域協議会と議員との意見交換会を閉会する。

[ 15時 10分 閉議 ]